

2011年1月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

2011年 明けましておめでとうございます

昨年は天災・人災が数多くあり、何かと不安な一年でした。今年は良い年でありますことを願うばかりです。

先生方には御健勝のことお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、経済界と同様に、天候も日々刻々と変化していますが、TVニュースをみて想像しているのと異なることが多々あります。

天候と同じで、歯科界も様々なうわさが飛び交い、また何のとりえもない保険点数の改正に最早うんざりしながらも、自分の足元をみて自分で判断しなければならない事が多くなりました。

自分流の時代が来たのかもしれない。

舌の色で健康は判断できるか

11月12月は舌苔で真っ白な舌や口臭で悩んでいる患者さんが多く見られました。

処方方は、学童は“Jupiter～Angel”、成人は“Angel～Fairy”歯ブラシで“キャナ リーナ”

歯磨剤または“神秘の水”を使用し、洗口は“月のしずく”が基本になります。力をかけずにさらさらと横みがきを主体として、歯間は縦みがきをします。これは言葉上「縦横みがき」と称していますが、本来のブラッシングを意味しています。ヘアブラシと同様に、力をかけずに時間や回数を多くすることが大切です。

口臭の強い方には“神秘の水”の使用を多くするか、“HI-ZAC”を処方します。

さて新年を迎えて、二週間間に指導した人たちの舌の色の記録をとったところ全員がピンク色のきれいな舌になっていました。もちろん舌苔とりで舌をしごいた方はいません。

唾液検査では、細菌と赤血球数が減少していて、白血球(リンパ球)が増えていました。十分休めて、ストレスがなくなり、免疫力が高まったことが良い結果を生んだようです。

診療姿勢の想い

1966年、大学卒業後直ちに小児歯科診療室に入局して患者数の多いのに驚きました。小児のう蝕が蔓延し、低年齢化が始まっているとのことでした。

海外事情では、多発性のう蝕の場合には全身麻酔治療をすることでした。しかし立ったままでは手術体制に入れません。子どもの勉強椅子姿勢で、術者が立ったままでは1時間の精密治療は不可能と考えました。

出来る限り背面版を倒して、椅子を90度あるいは180度回転させ、術者が患者の頭頂位置から足の先の方までを観察しながら施術をするように訓練しました。

先輩諸氏が反対もせず、黙って様子を見てくださったことに感謝しながら、幾通りかの方法の分析をしました。

ある日ビーチ先生や小佐々先生のチームが、水平診療と称して勉強会やデモンストレーションをされていることを知り早速受講しました。

同じ考えで同じことをしながら歯科診療体制を根本的に改革しようとする姿勢に圧倒されました。

おかげで正道を短期間に学ぶことが出来ました。やがて大学の全科の先生たちに講演し実演することを命じられて、水平診療ユニットが診療室にはいるようになりました。

完全な4ハンドアシストができる歯科衛生士が2人育ち、その成果を小児歯科学会で発表、特別ブースでデモンストレーションをするなど急激に歯科診療体制が変わっていくことを実感しました。

2~3年後には、後輩たちに腕の立つ麻酔医が育っていました。記録係を含めて6人のスタッフがそろって、夢の全身麻酔診療が出来るようになりました。おそらく日本で最初で最多の小児の歯科全身麻酔手術をしたという記録を残したと思います。

1995年阪神淡路大震災によって、手術を受けた子どもたちの行き先が分からない状態になってしまい、大学病院を退職することになりました。その後、水平診療や全身麻酔診療が継承されているのか、子どもたちの健康の追跡ケアがどこまで出来ているのか、歯科医療はどこまで進歩しているのか、知る由もありません。

さて全身麻酔手術後、再殖、再生、インプラントなどの施術後は完全なブラッシングが必要です。処方方は“Fairy”・“**Egg Round**”と“*One*”です。

確認のためのジェル状でシリンジ注入式のピオクタニン染色剤や、かわいらしいミラーそして洗口用に“月のしずく”を使用します。

これからのブラッシングは毛束の **Spatula** が決め手となるでしょう!!